

岩谷学園高等専修学校 平成29年度 自己評価 結果報告

岩谷学園建学の精神

わが学園は、教育を通して「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする。

学園の教育テーマ：楽しい教育

岩谷学園では地域、企業、教育機関などとの教育連携を推進するとともに、様々な教育研究事業に取り組み、その成果を教育に取り入れている。加えて独自の教育情報システムを構築するとともに、様々な工夫を凝らし、学園の教育テーマである「楽しい教育」の推進と、「建学の精神」の実現に努力している。

学校教育目標

- 社会を見つめ、自己の進路実現がかなうよう、指導・支援する。
- 生徒個々の自学力が向上するよう指導・支援する。

教育目標具現化の施策

- ①本校の伝統を継承しつつ、新しい時代の教育要望の応える学校を構築する。
- ②教職員全員が自己の教育力を伸ばすと共に、学校の発展を進める。
- ③地域・中学校・大学・専門学校等との連携を強め、本校の存在意義や教育方針を広く浸透させる。
- ④教育相談やアップルルームの活動を積極的に取り組み、理解を深める。
- ⑤学校安全を徹底し、安心して学校生活ができるよう環境を整える。

評価者

岩谷学園高等専修学校教職員 13名

平成29年度の取組目標とその評価

評価項目	取組目標	取組報告	評価
教務	生徒一人ひとりを向上させる指導方法の工夫・改善を図る	「楽しい授業」を実施した。	B
		アクティブラーニングの研究と授業実践をした。	
		校内研修の充実を図った。	
		放課後補習により自学自習・学習習慣の定着を図った。	
		新教育課程の研究を進めた。	
	教育システムの充実	英語・数学・簿記の習熟度別クラス編成を実施した。 ユニットベースへのスムーズな移行を準備・実施した。	
	学校行事の充実	諸行事を計画的に実施した。	
課題	「楽しい授業」の実践について、研究を重ね、アクティブラーニングについても外部研修会等に参加し研究内容の推進を図る。		
今後の改善方策	教員研修計画を作成し、より充実した研修を実施する。		
	生徒補習計画・体制を見直し、生徒参加率の向上を図る。		

進路指導	進路学習の充実	生徒・保護者対象の面談を計画的に実施した。	B
		進路ガイダンスを実施した。	
		進路学習ブックの作成を企画した。	
		キャリアセンターとの連携を深めた。	
課題	多様な進路先に対応できる進路指導体制を整える。		
今後の改善方策	キャリアセンター・就労移行支援事業所「Iビリーブ」との連携を強化する。		

生徒指導	校内指導	あいさつ、言葉使いなどの基本となるマナーの定着を図った。	B
		服装や頭髪、その他の学校規則に対する意識を高め、守らせた。	
		公共心・道徳心を養い、お互いを尊重する心を育成した。	
	校外指導	学校周辺パトロールを実施した。	
		警察や周辺の学校との連携を取り、情報交換した。 地域の防犯パトロールに参加し、地域と交流を図った。	
課題	生徒への指導が全体としてはやや足りなかった。		
今後の改善方策	学年集会・人権を守る授業・外部講師による研修会を計画的に実行する。		

教育相談	教育相談	教職員が連携し生徒情報を共有しながら教育相談の充実に努めた。	B
		教員研修を実施した。	
	課題	放課後に会議等があるため、教育相談時間の確保が課題である。	
今後の改善方策	校内研修の充実を図るとともに、外部研修会に参加し自己研鑽を積む。		

保健安全	生徒の健康管理	定期健康診断を実施と、生徒の健康管理を行った。	B
		健康診断結果による勧告書を発行・回収した。	
		時期に応じた保健情報を提供した。	
		熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス等の流行情報を速やかに伝えた。	
		保健室の維持管理を実施した。	
		保健室の適切な利用を指導した。	
	清掃の計画と実施、点検を実施した。		
傷病事故の管理	傷害事故の把握（教科担当と担任との連携を密にする）をした。		
課題	教室清掃に課題がある。		
今後の改善方策	清掃用具の整備、清掃計画を作成する。		

防災安全	災害時の対応	避難訓練を実施した。	A
		防災計画を作成（火災・地震・津波・風水害）した。	
		防災備品を点検・管理・購入した。	
		防災教育を推進した。	
課題	防災備品保管場所の整理整頓、構造化を推進したい。		
今後の改善方策	目標管理シートに点検項目・日程を記載する。		

施設管理	学校施設の整備	施設安全点検を実施した。	A
		情報関係施設管理を実施した。	
	課題	情報関係施設管理の計画的実施が難しかった。	
今後の改善方策	情報関係施設点検も月間行事予定に記載し、実施する。		

生徒会	生徒会活動・諸行事を通じてリーダーシップの育成を図る	生徒会活動の推進、企画、実施を図った。	C
		執行部の指導、支援を図った。	
		諸行事の指導、支援を図った。	
		ボランティア活動に関する事項を提案、支援した。	
	生徒会ブログの編集・運営を推進した。		
課題	生徒会ブログの更新回数が少ない。		
今後の改善方策	生徒会活動のP D C Aサイクルを構築する。		

特別 支援 教育	1人ひとりの特性 に配慮した指導を 行う	個別支援計画を作成した。	B
		生徒・保護者面談を定期的 に実施した。	
		保護者勉強会を企画・実 施した。	
		教員対象研修会を企画・ 実施した。	
		医療機関等専門機関と連 携した。	
	進路について早期から指 導・相談を実施した。		
課題	進路について早期から取 り組みたい。		
今後の改善方策	就労移行支援事業所「Iビ リーブ」と連携を強化し、 教員の進路指導力を向上 する。		

入試 委員会	入試広報活動の充 実	学校案内、募集要項を作 成した	B
		広報制作物を作成した。	
		HPを管理した。	
		学校説明会・体験入学を 運営した。	
		外部相談会に参加した。	
	中学校訪問を実施した		
課題	中学校訪問の計画的実施 が困難であった。		
今後の改善方策	中学校訪問計画の作成と 定期的見直しを実施する。		

\* 各評価項目における評価点(「適切:4」、「ほぼ適切:3」、「やや不適切:2」、「不適切:1」)  
その平均値(少数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示)を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4.0~3.6
B	3.5~3.1
C	3.0~2.6
D	2.5以下